

# 若狭の観音信仰

加藤 信孝

(佛敎大学社会学部助敎授)

## 一

日本において、人々に礼拝されている仏像は、如来像、菩薩像、明王像、天部像などに分けられるが、その中でも、広く一般に受け入れられている仏像は、釈迦如来以外では、阿弥陀如来と観世音菩薩である。阿弥陀仏は、浄土宗、浄土真宗、浄土西山派、時宗、融通念仏宗など浄土系仏敎寺院の本尊仏として安置されているだけに、現在では、わが国本尊仏の約半数を占めている。浄土宗、浄土真宗だけを合わせただけでも、三万体を越える阿弥陀仏を数えることができる。

他方、観世音菩薩は、地藏菩薩と共に、菩薩の中でも代表的なものであって、多くの人々によって拝まれている。観音

霊場の西国三十三所、東国三十三所、秩父三十四所、その他地方霊場百六十余の三十三所を合計すると六千体以上の観音像を数えることができるし、『古寺巡礼辞典』（中尾堯編東京堂出版、昭和四十八年）だけでも、観音像をもつ二千五百ヶ寺近い寺が載っている。その他観音像を安置して、観音寺と号する寺も各地に多い。

『法華経』普門品では、観音は三十三の姿になって現われる。ここから観音の三十三身説が生まれ、観音は三十三種に化身して法を説き、衆生を救うという信仰が生まれ、ここから三十三観音の信仰が生まれ、これに基づいて、いわゆる三十三所観音霊場が行なわれるようになる。

阿弥陀仏、観世音菩薩の信仰は、両者とも、釈尊を中心と

するのでなく、仏陀を中心に置き、前者は「理想を現今の諸法に置かず、西方浄土に移し、他力易行の信仰をとり」（姉崎正治「序文」矢吹慶輝『阿弥陀佛の研究』臨川書店、昭和五十六年復刻、十六頁）、後者は理想を現実におく現世利益的衆生救済を強調する。

『日本靈異記』、『法華驗記』、『今昔物語集』などの古典には、観音にまつわる説話が集められているが、春日和男の研究によれば、『日本靈異記』上中下三巻、百十六話中、上巻に三話（六、一七、三一）、中巻に五話（一七、三四、三六、三七、四三）、下巻に四話（三、七、一二、一三）みられ、他の諸仏の信仰利益譚にくらべて断然多い。

歴史的にみた場合、阿弥陀如来と観音菩薩の関係は、相互に、ある時は競合し、ある時は反発し、ある時は結合する。

すなわち、「中世に、真宗や浄土宗などの浄土信仰が全国にひろがるにつれて、奈良六宗や北都の二宗にもいろいろな形式で影響を与えはじめた。これら旧仏教のある者は、念仏結社に入って、浄土信仰に変わり、また、ある者は権力を行使して浄土教とは異なる浄土信仰を採用した。それが、阿弥陀如来の浄土ではなく、観音信仰、地藏信仰、弥勒信仰、陀羅

尼信仰であり、このうち、観音信仰と地藏信仰がすこぶる盛んとなる。観音信仰の場合、わが国では、奈良時代にすでに見られ、観音経はよく読まれ、観音芸術も異常な発達をとげた。時代が下がるにつれて、上層階級の観音信仰は、天台や真言宗によって、民間へと滲透しはじめる」（内藤梵爾『日本の宗教と社会』御茶の水書房、一九七八年、八五―七頁）。表1、2の通り、西国三十三所や坂東三十三所では、真言宗

表1

|         |
|---------|
| 西国三十三所  |
| 寺院の宗派別  |
| 内訳      |
| 天台宗     |
| 真言宗     |
| 法相宗     |
| 3 13 17 |

や天台宗の寺院が今でも多い。

表2

|             |
|-------------|
| 坂東三十三所      |
| 寺院の宗派別      |
| 内訳          |
| 真言宗         |
| 天台宗         |
| 曹洞宗         |
| 浄土宗         |
| 聖観音         |
| 1 2 2 12 16 |

現行の西国三十三所霊場の順序が、室町中期頃確立し、ついで坂東三十三所、さらに秩父三十四所（十五世紀末）など全国的に有名な観音霊場が成立する。秩父三十四所になると、表3のように、天台宗はなく、

表3

|         |
|---------|
| 秩父三十四所  |
| 寺院の宗派別  |
| 内訳      |
| 曹洞宗     |
| 臨済宗     |
| 真言宗     |
| 3 10 21 |

真言宗も少数、禅宗、とりわけ曹洞宗が多数を占めている

る。この西国、坂東、秩父を合わせた百ヶ所札所の他にも、国内各地に観音霊場の「写し」が現われてくる。

こうした西国霊場の地方版は、後述の通り、全国で一六〇余カ所を数えることができ、国内未見の国として、遠江、若狹、伊勢、安芸、石見、薩摩、大隅、対馬の数ヶ国があるだけである（傍点は筆者）。四国八十八ヶ所が一派の特徴を強くもっていることもあって、国内では特定の地域にみられるのとは対照的に、西国地方霊場は、数も多く、地域的な普遍性をもっている。成立年代をみても、観音霊場は、坂東や秩父の他にも中世起源が十ヶ所ほど数えることができるのに対して、四国八十八所の地方版は、中世成立と確定されるものはほとんどなく、その全てが江戸時代後期に成立したと考えられている（新城常三『社寺参詣の社会経済史的研究』塙書房、昭和五十七年、一一二—一四頁）。

以上の事実をさらに具体的にみるため、新城氏にしたがって、地方西国霊場に関する地域分布や成立年代を数字で示したのが表4、表5である（いづれも中世分が除かれている）。

表4によれば、近畿を除いて、東北、関東、中部を東のブロック、中国、四国、九州を西のブロックとして、東西に分

表4 地方西国観音の地域分布

|    |    |    |    |    |    |    |     |
|----|----|----|----|----|----|----|-----|
| 東北 | 21 | 関東 | 39 | 中部 | 35 | 近畿 | 25  |
| 中国 | 15 | 四国 | 7  | 九州 | 22 | 計  | 164 |

表5 地方西国観音の成立年代

|            |    |            |     |
|------------|----|------------|-----|
| 元禄迄 (1704) | 25 | 享保迄 (1736) | 32  |
| 安永迄 (1781) | 24 | 文政迄 (1830) | 19  |
| 明治前 (1868) | 18 | 不明         | 46  |
|            |    | 計          | 164 |

新城常三『社寺参詣の社会経済史的研究』  
塙書房、昭和57年、1123頁。（表4、5とも）

永遠成立の二十四ヶ所のうち、半数の十二が享保迄に入るとすれば、六十九が享保迄に成立したことになる、全体の半数を超えることとなる。

成立年代分と東国ブロック、近畿ブロック、西国ブロックという地域分類をクロスさせて特徴をいくつかとり出してみると次のようになる。東国では概して時代的差が稀薄で、幕末に比較的少ないのを除き、各時代ほぼ平均しているが、近

けると、東は九十五、西は四十四となつて、東が西の倍以上であり、さらに中世成立の十は東に入るため、その差はさらに大きくなる。表5の成立年代の分類によれば、享保迄に五十七ヶ所の地方霊場が成立し（中世を除く）、不明四十六を除く、一一八ヶ所を分母とした場合、全体の四十八パーセントを占める。さらに安

畿の靈場はほとんど享保期までに成立し終えている。しかるに、これに対して、西国は享保以前の成立は比較的少なく、二十九パーセントにすぎず、その大半は江戸中期以降である。それよりも古い中世成立の地方西国がほとんど近畿以東に集中するのと相まって、西国地方靈場の創建は、近畿、東国を経て伝播したものであり、しかもその風が盛んになるまでに、相当長い時間を必要としたといえる（新城常三『前掲書』一一三頁）。

地方靈場についての状況は右の通りであるが、次に文化圏からいえば、畿内に属する若狹を例として、観音巡礼を考えたい。

## 二

若狹における国指定重文の観音像は十二軀あり、次の通りである。

加茂神社（為生寺） 小浜市加茂  
木造千手観音立像（平安時代）、昭和四十七年五月三〇日指定。  
多田寺 小浜市多田

木造十一面観音立像（本堂安置、平安時代）、昭和四十二年六月十五日指定。

正林庵 小浜市太良庄

銅造如意輪観音半跏像（観音堂安置、奈良時代）、大正七年四月八日指定。

妙楽寺 小浜市野代

木造千手観音立像（本堂安置、平安時代）、昭和三十年二月二日指定。

羽賀寺 小浜市羽賀

木造十一面観音立像（平安時代）、明治三十四年八月二日指定。

木造千手観音立像（平安時代）、昭和十六年十一月六日指定。

安楽寺 遠敷郡上中町無悪

木造聖観音立像（平安時代）、大正十年四月三十日指定。

意足寺 大飯郡大飯町万願寺

木造千手観音立像（平安時代）、大正十年四月三十日指定。  
紙本墨書千手千眼陀羅尼經一卷、応徳元年（一〇八四）十一月十日加点的奥書あり。

中山寺 大飯郡高浜町中山

木造馬頭観音坐像（本堂安置、鎌倉時代）、昭和四十二年六月十五日指定。

馬居寺 大飯郡高浜町馬居寺

木造馬頭観音坐像（平安時代）、昭和五十五年指定

長慶院 小浜市堅海

木造観音菩薩坐像（平安時代）、昭和四十二年六月十五日指定。

法順寺 遠敷郡上中町脇袋

木造十一面観音立像（平安時代）、昭和三年八月十七日指定。

以上のように、国指定重文十一ヶ寺十二軀の観音像は、福井県下の小浜市、遠敷郡、大飯郡のみにあって、その他の地域には一軀もない。

上に列記した以外にも、若狭では、次のように県指定、市指定、町指定文化財の観音像があり、制作年代は、いずれも藤原時代から室町時代である。

県指定

妙楽寺 小浜市野代

木造観音菩薩立像（平安時代）

長福寺 小浜市平野

木造十一面観音立像（鎌倉時代）

正法寺 小浜市大原

銅造如意輪観音半跏像（鎌倉時代）

福寿寺 小浜市矢代

木造正観音坐像（藤原時代）

雲岳寺 遠敷郡上中町麻生野

木造観音菩薩立像（平安時代）

市指定

松福寺 小浜市新小松原

木造観音菩薩立像（平安時代）

大智寺 小浜市須縄

木造十一面観音立像（鎌倉時代）

町指定

水生寺 三方郡美浜町河原市

木造十一面観音立像（室町時代）

青蓮寺 三方郡美浜町佐柿

木造観音菩薩立像（平安時代）

以上のように、多くの観音像を残している若狭地方は、古い時代から、観音信仰の盛んであった地域と考えることができる。

### 三

前述のように、西国地方霊場は国内各地に広く普遍性をもつて設けられていて、これがみられない地域の方がむしろ珍しい位といわれて、若狭もその一つとして挙げられている。ところが次に掲げる若狭三十三所観音順礼は、牧田近俊という人物が、明通寺（小浜市門前にあり、平安初期草創の伝承をもつ古刹。寺藏文書一七〇点のうち、中世のものが四分の三を占める）の古文書から採り出して、『若狭郡県志』（小浜市史編纂委員会編『小浜市史』小浜市、昭和四十六年、三九三―六一三頁所収）と題する自らの著書において紹介したものである。

#### 若狭国三十三所観音

##### 遠敷郡

##### 第一番 如意輪観音 小浜明王院

紀伊国那智に准ず

##### 第二番 十一面観音 小浜西光寺

紀伊国三井寺に准ず

##### 第三番 千手観音 竹原大乘寺

紀伊国粉河寺に准ず

##### 第四番 千手観音 国富村羽賀寺

和泉国旗尾寺に准ず

##### 第五番 千手観音 丹生小野寺

河内国藤井寺に准ず

##### 第六番 千手観音 津々見小野寺

大和国壺坂寺に准ず

##### 第七番 如意輪観音 金谷正照院

大和国岡寺に准ず

##### 第八番 正観音 神宮寺

大和国長谷寺に准ず

##### 第九番 不空羂索観音 多太寺

大和国興福寺に准ず

##### 第十番 千手観音 野代妙楽寺

山城国御室戸寺に准ず

##### 第十一番 准胝観音 谷田部谷田寺

山城国醍醐寺に准ず

第十二番 千手観音 松永庄明通寺

近江国石間寺に准ず

第十三番 如意輪観音 玉置庄天徳寺

近江国石山寺に准ず

第十四番 如意輪観音 鳥羽庄黒田寺

近江国三井寺に准ず

第十五番 十一面観音 無悪山安楽寺

山城国新熊野に准ず

### 大飯郡

第十六番 千手観音 加斗飯盛寺

山城国清水寺に准ず

第十七番 十一面観音 加斗細谷吉祥寺

山城国六波羅密寺に准ず

第十八番 如意輪観音 本郷松森玉正寺

山城国六角堂に准ず

第十九番 千手観音 佐分利満願寺

山城国草堂に准ず

第二十番 千手観音 佐分利鹿野寺

山城国善峯寺に准ず

第二十一番 正観音 佐分利石山

丹波国穴太寺に准ず

第二十二番 千手観音 木津庄金蔵寺

摂津国総持寺に准ず

第二十三番 千手観音 青郷金林寺

摂津国勝尾寺に准ず

第二十四番 十一面観音 中山一乗寺

摂津国中山寺に准ず

第二十五番 千手観音 永福寺

播磨国清水寺に准ず

第二十六番 千手観音 馬居寺村西光寺

播磨国法華寺に准ず

### 三方郡

第二十七番 如意輪観音 倉見庄成願寺

播磨国書写山に准ず

第二十八番 十一面観音 向笠月輪寺

丹後国成相に准ず

第二十九番 馬頭観音 田井竜泉寺

丹後国松尾寺に准ず

第三十番 千手観音 田井島

近江国竹生島に准ず

第三十一番 正観音 耳庄園林寺

近江国長命寺に准ず

第三十二番 十一面観音 佐柿多聞寺

近江国観音寺に准ず

第三十三番 十一面観音 水生長法寺

美濃国谷汲に准ず

これを紹介した牧田近俊は、『小浜市史』の説明によると、小浜藩主第四代酒井忠圀の藩医として召抱えられ、延宝年間（一六二七—一八〇年）、医療の傍ら若狭三郡（遠敷郡、大飯郡、三方郡）を隈なく踏査し、国郡、山川、古跡、神社、寺院、墳墓などあらゆる部門を分類し、『若狭郡県志』十巻を著した。

この牧田近俊によれば、彼の調査した延宝年間に、誰がいづこの三十三所を定めたかすでに判然とせず、廃寺になつてゐる寺もあり、また寺の名称を変更してしまつたのもあつて、この三十三所が作られてからかなりの時間を経過していたと

思われる。

さらに、若狭三郡にまたがるこの三十三所霊場の一番から三十三番までにそれぞれ割りふられてゐる西国三十三所札所の順番をみると、現在の順番と全く同じであることが判る。

また一番から三十三番に記されてゐる七種の観音は、西国三十三所の本尊とそれぞれ一致するように若狭の三十三所でも選ばれてゐる。八番神宮寺（長谷寺は十一面観音）、二十六番馬居寺（法華寺は聖観音）、二十八番月輪寺（成相山は聖観音）の三所が異なつてゐるにすぎない。両者の間で三体が異なるのは、巡礼コースを無視することができないため、該当する観音がなく、やむなく別種の観音を当てたのであろう。

西国三十三所巡礼は、三井寺行尊（一〇五五—一一三五年）にはじまるとする見解が定説化してゐるが、それによると、長谷寺からはじまり、飛鳥地方、和歌山、熊野を経て、槇尾、藤井寺から摂津、丹後を巡り、美濃、近江、京都、奈良へ、最後は宇治三室戸寺に達する巡路をとつていて、現在の道順とは異なつてゐる。南紀那智にはじまり、東濃の谷汲に終る現在のコースは、十五世紀中葉から終り頃には定着してゐたといわれている（速水侑『観音信仰』塙書房、昭和四十五年、



二七〇頁、三一六頁。佐和隆研『西国巡礼』社会思想社、昭和四十五年、十四頁、二十一頁。

さらに上に挙げた若狭西国三十三番の水生長法寺十一面観音像の制作時は、倉田文作によれば、一四〇〇年代の後半と推定されている（倉田文作監修『若狭の古寺美術』同刊行会、昭和五十六年一八一頁）。他方、現地では、すでに昭和二十七年に当観音八百年の記念法要を営んでいる。

以上の観点から、若狭の三十三所の成立は、早ければ、一四〇〇年代の後半（室町時代）、遅くとも牧田による調査の行われた延宝年間の終りにあたる一六八〇年であるが、前述の事情からすると、延宝年間よりかなり以前に成立したと思われる。いずれにせよ、当三十三所観音霊場は、各地の地方西国観音の中でも、時代区分では、元禄期まで、場合によっては中世まで溯る、かなりの先行型巡礼地の一つであったといえよう。気象は北陸に属し、文化は畿内に所属するといわれる若狭のこと、観音三十三所も、畿内の他の地域と同様、早い時代から開設されていたのであろう。「建武三年（一三三五）、汲部（つるべ）・田鳥の両村には観音堂があり、毎月十八日に観音講が行われていた」（内藤莞爾『前掲書』一〇

六一七頁）ことから、この時代に観音信仰が盛んであったことがうかがえる。

観音像は、山すそや海辺の小さなお堂にも安置されていたから、山崩れや大風、火事などの災害にあつて残らなかったものもあつたに違いない。

先に挙げた若狭の三十三所観音霊場のうち、その当時の宗派は確定できないが、現在じっさい残っているのは、四番羽賀寺（高野山真言宗）、五番丹生小野寺（真言宗東寺派）、七番金谷正照院（現万徳寺、高野山真言宗）、八番神宮寺（天台宗）、九番多太寺（高野山真言宗）、十番野代妙楽寺（高野山真言宗）、十一番谷田部谷田寺（高野山真言宗）、十二番松永明通寺（真言宗御室派）、十三番玉置庄天徳寺（高野山真言宗）、十五番無悪山安楽寺（曹洞宗）、十六番加斗飯盛寺（高野山真言宗）、十八番本郷松森玉正寺（臨済宗南禅寺派）、十九番佐分利満願寺（真言宗東寺派）、二十四番中山一乗寺（真言宗御室派）、二十六番馬居寺村西光寺（現馬居寺、高野山真言宗）、二十七番倉見庄成願寺（高野山真言宗）、二十八番向笠月輪寺（高野山真言宗）、三十三番水生長法寺（曹洞宗）の十八ヶ寺である。宗派別の内訳は、真言宗十四ヶ寺

(高野山真言宗十、真言宗東寺派二、真言宗御室派二)、天台宗一ヶ寺、曹洞宗二ヶ寺、臨濟宗(南禪寺派)一ヶ寺で、真言宗の占める割り合いが大きい。多太寺は、不空羅索觀音を安置していたのであれば、当時、天台宗に属していたとも考えられる。若狭の三十三所は、西国三十三所觀音靈場をなぞらえているだけに、真言を中心として、天台を補なう形で、寺檀關係もそう強くない時期に成立したのであろう。あるいは、真言、天台以外では、弱少の寺院か、住職もない觀音堂だけの寺であったために、簡単に消滅してしまったのかもしれない。現在の若狭には、曹洞宗寺院が多いにもかかわらず、この三十三所には少ないこと、そして真言寺院が多く含まれていることが、この靈場の特徴であって、曹洞宗が若狭に進出する以前の巡礼地と考えられよう。

#### 四

仏教寺院の人口当り密度は福井県が全国でもっとも高く(NHK編『日本人の県民性』日本放送協会出版部、昭和五十四年、一七二頁)、福井県の中でも、若狭地方に限ると、その密度はさらに高くなる。若狭と、越前地方における仏教

寺院分布の特徴は、木の芽峠で二分される。すなわち嶺北地方と嶺南地方でそれぞれ異なる。嶺北地方には、吉崎という拠点もあって、真宗の勢力がだんぜん強く、嶺南地方は、禪宗が盛んであり、嶺南東部は曹洞宗、同西部は臨濟宗の寺院が多く、東寺などの莊園も多かっただけに真言宗がそれにつづく。若狭では、浄土宗、時宗、日蓮宗などもみられるが数は少なく、真宗も福井県全体からすれば数は少ない。真宗大谷派は、県内二九九寺のうち二七五寺が若狭以外にあり、浄土真宗本願寺派は、県内三九七寺のうち三六六寺が若狭以外にある。寺院の多くは真言宗、曹洞宗、臨濟宗などのいわゆる非念仏系で占められている。若狭でも、寺院の集中しているのは、小浜市で一四二ヶ寺に達し、その中四割に近い五四ヶ寺が曹洞宗に属する(表6)。全国における觀音靈場寺院の宗派は、ほとんどすべてにわたるが、非念仏系の比率が高く、真宗、日蓮系は特に低い。

このように真言宗、曹洞宗、臨濟宗という非念仏系寺院の多い若狭地方に、古くから、觀音信仰が行なわれていたことは、先述した通りである。若狭地方の寺を巡っていると、時折、寺の門前に「地西国一番」とか「国西国一番」と書かれ

表6 宗派別寺院数内訳

| 地区名<br>包括団体名 | 小浜市 | 三方郡 | 遠敷郡 | 大飯郡 | その他  | 若狭計 | 福井県計 |
|--------------|-----|-----|-----|-----|------|-----|------|
| 天台宗          | 3   |     |     |     | 24   | 3   | 27   |
| 天台宗          |     | 1   |     |     | 3    | 1   | 4    |
| 天台宗          | 2   | 1   |     |     | 76   | 3   | 79   |
| 高野真言宗        | 7   | 8   | 1   | 4   | 8    | 20  | 28   |
| 真言宗          |     |     |     |     | 19   | 0   | 19   |
| 浄土宗          | 5   | 1   |     | 2   | 83   | 8   | 91   |
| 臨済宗          | 12  |     |     |     | 10   | 12  | 22   |
| 曹洞宗          | 54  | 37  | 42  | 9   | 153  | 142 | 295  |
| 黄蘗宗          |     |     |     |     | 2    | 0   | 2    |
| 真宗           | 4   | 9   | 7   | 4   | 275  | 24  | 299  |
| 真宗           |     |     |     |     | 7    | 0   | 7    |
| 浄土真宗         | 13  | 10  | 12  | 1   | 361  | 36  | 397  |
| 真宗           |     |     |     |     | 12   | 0   | 12   |
| 真宗           |     |     |     |     | 53   | 0   | 53   |
| 真宗           |     |     |     |     | 30   | 0   | 30   |
| 真宗           |     |     |     |     | 53   | 0   | 53   |
| 日蓮宗          | 11  | 1   | 1   | 3   | 69   | 16  | 85   |
| 法華宗          | 1   |     |     |     | 13   | 1   | 14   |
| 法華宗          |     |     |     |     | 2    | 0   | 2    |
| 法華宗          | 3   |     |     |     | 41   | 3   | 44   |
| 法華宗          | 5   |     |     | 1   | 14   | 6   | 20   |
| 真言宗          |     |     |     |     | 3    | 0   | 3    |
| 真言宗          |     |     |     |     | 10   | 0   | 10   |
| 浄土宗          |     |     |     |     | 4    | 0   | 4    |
| 浄土真宗         |     |     |     |     | 1    | 1   | 2    |
| 日本山          |     | 1   |     |     | 1    | 1   | 2    |
| 本門           | 1   |     |     |     | 1    | 1   | 2    |
| 本門           |     |     |     |     | 4    | 0   | 4    |
| 本願           | 1   |     |     |     | 2    | 1   | 3    |
| 真言宗          | 1   |     |     | 3   | 3    | 4   | 7    |
| 真言宗          |     |     |     |     | 1    |     | 1    |
| 真言宗          |     |     |     |     | 12   |     | 12   |
| 真言宗          |     |     |     |     | 41   |     | 41   |
| 最上宗          |     |     |     |     | 1    |     | 1    |
| 真言宗          |     |     |     |     | 3    |     | 3    |
| 真言宗          |     |     |     |     | 1    |     | 1    |
| 真言宗          |     |     |     |     | 1    |     | 1    |
| 真言宗          | 1   |     |     |     | 2    | 1   | 3    |
| 真言宗          |     |     |     |     | 2    |     | 2    |
| 真言宗          | 1   |     |     |     | 3    | 1   | 4    |
| 真言宗          | 1   |     |     |     |      | 1   | 1    |
| 真言宗          | 16  |     |     | 2   |      | 18  | 18   |
| 修驗宗          |     |     |     |     | 2    |     | 2    |
| 山岳宗          |     |     |     |     | 1    |     | 1    |
| 金峰宗          |     |     | 1   |     |      | 1   | 1    |
| 臨済宗          |     |     |     | 3   |      | 3   | 3    |
| 臨済宗          |     |     |     | 31  |      | 31  | 31   |
| 臨済宗          |     |     |     | 6   |      | 6   | 6    |
| 単立           |     | 1   |     | 1   | 28   | 2   | 30   |
| 計            | 142 | 70  | 64  | 70  | 1434 | 346 | 1780 |

(全日本仏教会寺院名鑑刊行会編『全日本寺院名鑑』  
第3巻同刊行会, 昭和44年 p.179頁)

た石碑の建っているのをみかけることができる。地西国とは、三方郡の三方町と美浜町に広がるいわゆる三方西国ともいふべき霊場であるが、ここでは三十三所すべてが観音寺院や観音堂というのではないらしい。

地元の人々が「国西国」と呼ぶのは、現行の「若狭国西国」という三十三観音霊場のことであって、先に挙げた『若

狭郡県志』所収の三十三所とは、構成寺院がかなり異なっている。二つの三十三所の間に何らかの関連があるのかないのかを判断する材料をもたないが、本小論上においては、両者を旧と新に区分して扱うこととしたい。以下に、若狭国西国

三十三所観音(新)を掲げる(『若狭国西国霊場三十三ヶ所御詠歌』による)。

|      |              |              |         |                |        |              |
|------|--------------|--------------|---------|----------------|--------|--------------|
| 第一番  | 錢藏山          | 為生寺          | 曹洞宗     | 十一面觀音<br>(重文)  | 917-02 | 小浜市加茂        |
| 第二番  | 普門山          | 保中寺          | 曹洞宗     | 十一面觀音          | 917-02 | 小浜市本保        |
| 第三番  | 頼位山          | 福壽寺<br>(觀音堂) | 高野山真言宗  | 聖觀音            | 917-01 | 小浜市矢代        |
| 第四番  |              | 正林寺          | 曹洞宗     | 如意輪觀音<br>(重文)  | 917    | 小浜市太良庄太良     |
| 第五番  | 湖相山          | 慶林寺          | 曹洞宗     | 聖觀音            | 917    | 小浜市栗田29—1    |
| 第六番  | 鳳聚山          | 羽賀寺          | 高野山真言宗  | 千手觀音立像<br>(重文) | 917    | 小浜市羽賀83—5    |
| 第七番  | 龜泉山          | 福昌寺          | 臨濟宗南禪寺派 | 聖觀音            | 917    | 小浜市北塩屋15—4   |
| 第八番  | 靈谷山          | 真珠庵          | 臨濟宗南禪寺派 | 正觀音            | 917    | 小浜市福谷4—5     |
| 第九番  | 大谷山          | 瑞月寺          | 臨濟宗妙心寺派 | 如意輪觀音          | 917-01 | 小浜市甲ヶ崎2—13   |
| 第十番  | 海福山          | 常福寺          | 曹洞宗     | 十一面觀音          | 917-01 | 小浜市西小川10—9   |
| 第十一番 | 興府山          | 福泉寺          | 曹洞宗     | 十一面觀音          | 917    | 小浜市府中17—21   |
| 第十二番 | 光明山<br>(上野山) | 正法寺          | 真言宗泉涌寺派 | 如意半輪觀像         | 917    | 小浜市大原町37—1   |
| 第十三番 | 青井山          | 高成寺          | 臨濟宗南禪寺派 | 十一面千手觀音        | 917    | 小浜市青井1—11    |
| 第十四番 | 青葉山          | 中山寺          | 真言宗御室派  | 馬頭觀音<br>(重文)   | 919-23 | 大飯郡高浜町中山27—2 |
| 第十五番 | 青葉山          | 松尾寺          | 真言宗醍醐派  | 馬頭觀音           | 625    | 舞鶴市松尾532     |
| 第十六番 | 本光山          | 馬居寺          | 高野山真言宗  | 馬頭觀音<br>(重文)   | 919-22 | 大飯郡高浜町馬居寺3—1 |
| 第十七番 | 深山           | 飯盛寺          | 高野山真言宗  | 千手觀音           | 917    | 小浜市飯盛154—1   |

|       |       |               |        |                 |        |                 |
|-------|-------|---------------|--------|-----------------|--------|-----------------|
| 第十八番  | 萬願山   | 意足寺           | 曹洞宗    | 十一面千手觀音<br>(重文) | 919-21 | 大飯郡大飯町佐分利萬願寺7-5 |
| 第十九番  | 普門山   | 谷田寺           | 高野山真言宗 | 千手觀音            | 917    | 小浜市谷田部24-4      |
| 第二十番  | 岩屋山   | 妙樂寺<br>(岩屋觀音) | 高野山真言宗 | 千手觀音<br>(重文)    | 917    | 小浜市野代町28-13     |
| 第二十一番 | 竜雲山   | 神通寺           | 曹洞宗    | 如意輪觀音           | 917-02 | 小浜市遠敷56-2       |
| 第二十二番 | 日照山   | 正明寺           | 曹洞宗    | 四仏大悲            | 917-02 | 小浜市神宮寺15-27     |
| 第二十三番 | 宝篋山   | 天德寺           | 高野山真言宗 | 馬頭觀音            | 919-15 | 遠敷郡上中町天德寺38-3   |
| 第二十四番 | (大蓮山) | 大坊(成願寺)       | 高野山真言宗 | 如意輪觀音           | 919-13 | 三方郡三方町成願寺13-14  |
| 第二十五番 | 藤井山   | 向陽寺           | 曹洞宗    | 大悲閣             | 919-13 | 三方郡三方町藤井56-1    |
| 第二十六番 | 慧日山   | 宝泉院           | 高野山真言宗 | 如意輪觀音           | 919-13 | 三方郡三方町氣山13-7    |
| 第二十七番 |       | 觀音寺           | 曹洞宗    | 十一面觀音           | 919-13 | 三方郡美浜町日向6-1     |
| 第二十八番 | 西耳山   | 水生寺           | 曹洞宗    | 十一面觀音           | 919-13 | 三方郡美浜町河原市       |
| 第二十九番 | 雲桂山   | 帝釈寺           | 高野山真言宗 | 正觀音             | 919-13 | 三方郡美浜町佐田43-9    |
| 第三十番  | 日照山   | 月輪寺           | 高野山真言宗 | 聖觀音             | 919-13 | 三方郡三方町向笠27寺阪16  |
| 第三十一番 | 慈眼山   | 弘誓寺           | 曹洞宗    | 如意輪觀音           | 919-13 | 三方郡三方町黒田7-14    |
| 番外    | 大悲山   | 石觀音           | 曹洞宗    | 石觀音             | 919-13 | 三方郡三方町322-1     |
| 第三十二番 | 無惡山   | 安樂寺           | 曹洞宗    | 聖觀音<br>(重文)     | 919-15 | 遠敷郡上中町無惡12-12   |
| 第三十三番 | 北城山   | 永昌寺           | 曹洞宗    | 十一面觀音           | 919-15 | 遠敷郡上中町有田24-4    |

この(新)国西国と先に挙げた(旧)国西国の両方に含まれている寺院は、羽賀寺、多太(田)寺、安楽寺、妙楽寺、谷田寺、天徳寺、佐分利万願寺、飯盛寺、中山寺、馬居寺、成願寺、月輪寺、水生寺の十三ヶ寺で、ほとんどが真言宗、

二ヶ寺が曹洞宗である。

ところが、この(新)三十三所(番外を含む)寺院の宗派別内訳

曹洞宗 4 15 16  
真言宗  
臨済宗

曹洞宗十四ヶ寺、真言宗四ヶ寺、臨済宗四ヶ寺である。

すなわち、新三十三所寺院の宗派

表 8 若狭(新)三十三所(番外を含む)観音の種類別内訳

十一面観音 9  
聖観音 8  
如意輪観音 7  
千手観音 5  
馬頭観音 4  
その他 2

別内訳は、表7の通りで、曹洞宗、真言宗、臨済宗からなり、先に述べた若狭地方の寺院分布の特徴と相応する。

### 結びに代えて

国道二十七号線、国鉄小浜線に沿

って点在する新若狭国西国三十三所を巡るコースは、若狭地方の中心地小浜を出発して西に向い、西の端大飯郡高浜町で折り返して東に向い、三方郡美浜町で再び折り返し、もとの小浜地区に帰る。遠敷郡を出発点とし、大飯郡、三方郡と巡るコースは、新旧若狭国西国の両者に共通している。その行程距離は、約一二〇キロメートルとなり、秩父三十四観音の九〇キロより若干長い。しかし、西国三十三観音の約一二〇〇キロ、坂東三十三観音の約一三〇〇キロに較べると、若狭の三十三所が、秩父型の地方霊場であることが判る。

若狭の国西国が、比較的新しい時代に作られたとしても、観音信仰の先進地帯であったために、多くの古い観音像が残っている。

先に挙げた国指定の重文のうち、長慶院、法順寺を除く、九ヶ寺十観音は、新国西国に含まれ、このうち、多田寺、妙楽寺、羽賀寺、安楽寺、意足寺、馬居寺の六ヶ寺の観音が旧国西国にも含まれる。

右の新若狭三十三所の九ヶ寺十軀の観音と比較するため、

西国三十三所、坂東三十三所、秩父三十四所における重文の観音像を数えた。

これによると、西国三十三所は、国宝を含めて十三ヶ寺二十三観音に達するが、西国三十三所の東国版といわれる坂東三十三所は、四ヶ寺五軀である。前二者と共に、百観音を形成する秩父三十四所には、重文の観音像は一軀もない（昭和五十五年）。

さすが西国三十三所では、多くの観音像が重文や国宝の指定を受けているのは当然としても、三十三所霊場としては別格の坂東三十三所や秩父三十四所より、全国的にはほとんど無名の若狭国西国に重要文化財指定を受けた観音が多く含まれている。そして西国や坂東と同様、若狭国西国は、全体の内、変化観音の占める割合が高い（表8）。旧の国西国が残存しないのは残念ではあるが、古い遺産を相続した現行の若狭国西国は、地方巡礼地の中でも、有名な三十三所に劣らない霊場の一つといえる。

（昭和五十七年十月二十六日脱稿）